

III 一～五類 全数把握感染症

1. 一類感染症

全国、大阪府とも発生はなかった。

2. 二類感染症

結核以外の二類感染症は、全国、大阪府とも発生はなかった。

結核については、下記ホームページを参照されたい。

(財)結核予防会結核研究所 疫学情報センター

<http://jata-ekigaku.jp>

(文責：皐月)

3. 三類感染症

●コレラ

大阪府内では、コレラの発生はなかった。

●細菌性赤痢

2月に1例の届出があり、推定感染地域は国内で、患者の症状は、発熱、下痢、腹痛、しぶり腹、膿粘血便であった。

●腸チフス

大阪府内では、腸チフスの発生はなかった。

●パラチフス

大阪府内では、パラチフスの発生はなかった。

●腸管出血性大腸菌感染症

181例の届出があった。年間を通しての発生状況については、8月に保育園でO157による集団感染事例(症例数26)が発生したため、31から32週にかけて届出数が多かった(図1)。なお、本事例以外は、全て散発或いは家族内発生事例であった。感染者の年齢は10歳未満が最も多く、男女間での比較では、女性の方が、感染者が多かった(図2)。なお、HUS患者の報告は5例であった。

(文責：川津)

図1 腸管出血性大腸菌感染症 週別発生状況 2021年1~52週

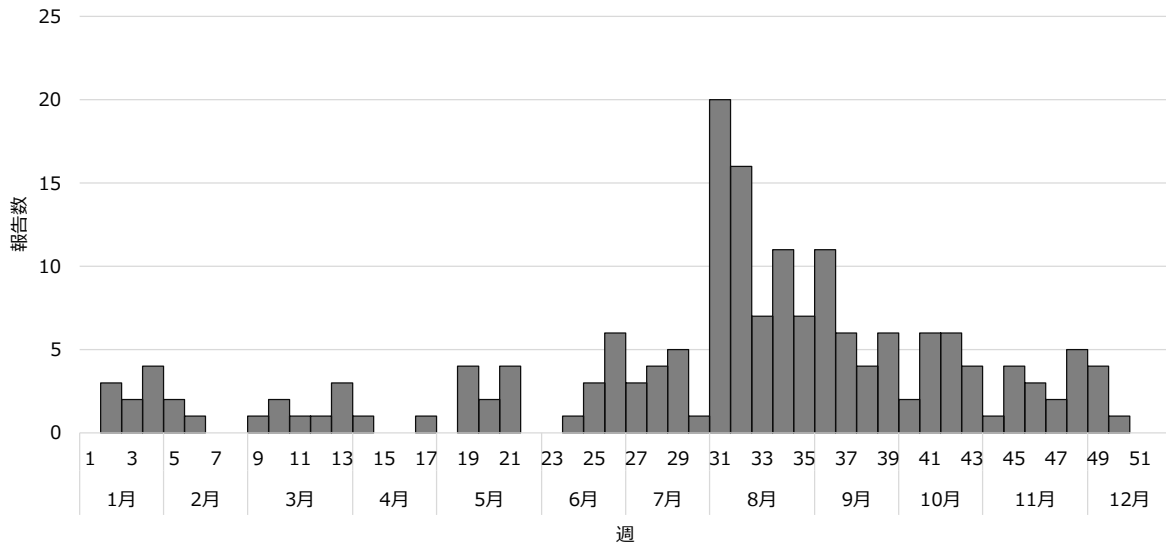
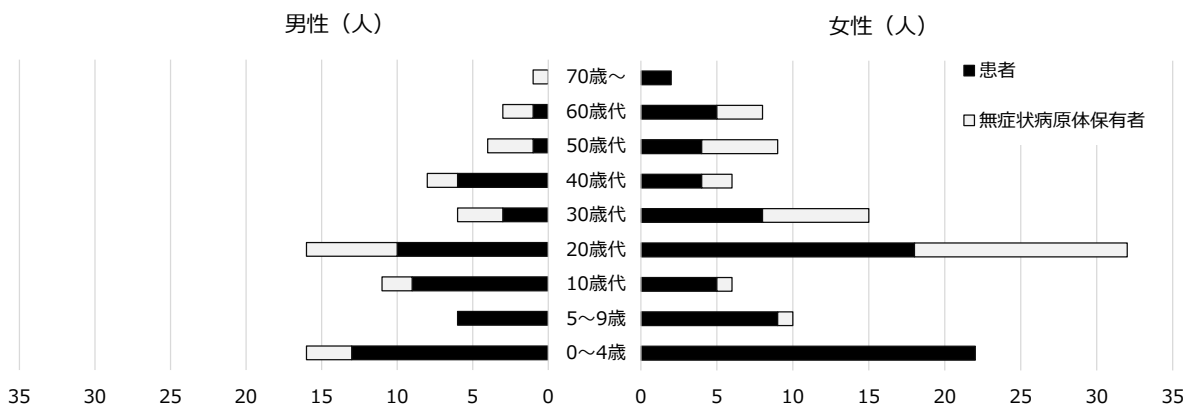


図2 腸管出血性大腸菌感染症 年齢別発生状況 2021年1~52週



4. 四類・五類感染症（全数把握分）

2021年、大阪府における四類・五類感染症の届出数は、25疾患1,651例であった。2020年の30疾患1,761例に比べて5疾患減少し、届出数は110例の減少であった（表1）。

表1 四類・五類全数把握感染症届出数

種別	疾患名	届出数		大阪府内計		全国計	
		2021年	2020年	2021年	2020年	2021年	2020年
四類	E型肝炎	12	4	458	454		
	A型肝炎	3	7	71	120		
	Eキノコックス症	0	0	24	22		
	オウム病	1	0	9	7		
	回帰熱	0	0	10	15		
	Q熱	0	0	1	0		
	狂犬病	0	0	0	1		
	コクシオイデス症	0	0	0	6		
	ジカウイルス感染症	0	0	0	1		
	重症熱性血小板減少症候群	0	0	110	78		
	チクングニア熱	0	0	0	3		
	つつが虫病	2	0	545	536		
	デング熱	0	5	8	45		
	日本紅斑熱	8	11	487	421		
	日本脳炎	0	0	3	5		
	ブルセラ症	0	1	1	2		
	ポツリヌス症	0	2	5	4		
	マラリア	6	0	30	21		
	ライム病	0	0	23	27		
	類鼻疽	0	0	0	1		
レジオネラ症	131	99	2,131	2,058			
レプトスピラ症	2	0	34	16			
四類合計		165	129	3,950	3,843		
五類	アメーバ赤痢	48	49	537	613		
	ウイルス性肝炎	16	23	204	246		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	185	157	2,065	1,952		
	急性弛緩性麻痺	3	2	25	34		
	急性脳炎	9	18	338	490		
	クリプトスポリジウム症	0	1	5	6		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	15	7	181	154		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	42	49	646	764		
	後天性免疫不全症候群	104	114	1,054	1,096		
	ジアルジア症	2	6	36	28		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	18	25	194	253		
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	2	1	14		
	侵襲性肺炎球菌感染症	92	116	1,405	1,655		
	水痘（入院例）	14	11	301	362		
	先天性風しん症候群	0	0	1	1		
	梅毒	864	901	7,978	5,871		
	播種性クリプトコックス症	9	6	161	152		
	破傷風	0	1	93	105		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	25	22	124	136		
百日咳	39	112	752	2,947			
風しん	1	7	12	102			
麻しん	0	1	6	12			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	2	6	10			
五類合計		1,486	1,632	16,125	17,003		
合計		1,651	1,761	20,075	20,846		

四類感染症の届出数は8疾患165例であり、前年に比べて33例減少した。前年届出がなかったオウム病、つつが虫病、レプトスピラ症について報告があった。前年届出があったデング熱、ブルセラ症、ポツリヌス症について報告がなかった。その他増加した疾患は、E型肝炎、マラリア及びレジオネラ症の3疾患であり、減少した疾患は、A型肝炎及び日本紅斑熱の2疾患であった。E型肝炎は、12例の届出があり、前年の4例に比べて、8例の増加であった。マラリアは、6例の届出があり、前年の3例に比べて、3例の増加であった。レジオネラ症は、131例の届出があり、前年の99例に比べて、32例の増加であった。A型肝炎は、3例の届出があり、前年の7例に比べて、4例の減少であった。日本紅斑熱は、8例の届出があり、前年の11例に比べて、3例の減少であった(表1)。

五類感染症の届出数は17疾患1,486例であった。前年の届出数に比べて146例の減少であった。増加した疾患のうち、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、185例の届出があり、前年の157例に比べて28例の増加となった。急性弛緩性麻痺は、3例の届出があり、前年の2例に比べて1例の増加となった。クロイツフェルト・ヤコブ病は、15例の届出があり、前年の7例に比べて8例の増加であった。水痘(入院例)は、14例の届出があり、前年の11例に比べて3例の増加であった。播種性クリプトコックス症は、9例の届出があり、前年の6例に比べ3例の増加であった。バンコマイシン耐性腸球菌感染症は、25例の届出があり、前年の22例に比べ3例の増加であった。

減少した疾患のうち、ウイルス性肝炎は、16例の届出があり、前年の23例に比べて7例の減少であった。急性脳炎は、9例の届出があり、前年の18例に比べて9例の減少であった。劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、42例の届出があり、前年の49例に比べて7例の減少であった。後天性免疫不全症候群は、104例の届出があり、前年の114例に比べて10例の減少となった。侵襲性インフルエンザ菌感染症は、18例の報告があり、前年の25例に比べ7例の減少であった。侵襲性肺炎球菌感染症は、92例の報告があり、前年の116例に比べ24例の減少であった。侵襲性髄膜炎菌感染症は、前年2例の届出があったが、2021年は届出がなかった。梅毒は、864例の届出があり、前年の901例に比べて、37例の減少であった。百日咳は、39例の届出があり、前年の112例と比べて73例の減少であった。風しんは、1例の届出があり、前年の7例に比べて6例の減少であった。麻しんについては、別項で後述する。薬剤耐性アシネトバクター感染症は、前年2例の報告があったが、2021年は届出がなかった。

全国の2021年における四類・五類感染症の届出数を見ると、20,075例で前年の20,846例と比べて771例の減少となっている。主に、四類感染症で増加した疾患は、重症熱性血小板減少症候群が78例から110例に、つつが虫病が536例から545例に、日本紅斑熱が421例から487例に、マラリアが21例から30例にレジオネラ症が2,058例から2,131例に、レプトスピラ症が16例から34例にそれぞれ増加していた。五類感染症では、カルバペネム

耐性腸内細菌科細菌感染症が 1,952 例から 2,065 例に、クロイツフェルト・ヤコブ病が 154 例から 181 例に、梅毒が 5,871 例から 7,978 例にそれぞれ増加している。

一方、減少した主な疾患について見ると、四類感染症では、A 型肝炎が 120 例から 71 例に減少していた。デング熱が 45 例から 8 例に減少していた。五類感染症では、急性弛緩性麻痺が 34 例から 25 例に、急性脳炎が 490 例から 338 例に、侵襲性インフルエンザ菌感染症が 253 例から 194 例に、侵襲性髄膜炎菌感染症が 14 例から 1 例に、侵襲性肺炎球菌感染症が 1,655 例から 1,405 例にそれぞれ減少している。また、百日咳は 2,947 例から 752 例に、風しんは 102 例から 12 例にそれぞれ大きく減少していた。

(文責 : 皐月)

●麻しん

2021 年、大阪府において、麻しんの届出はなかった。全国における 2021 年の届出は 6 例であった。2020 年に続き、新型コロナウイルス感染症の流行における渡航制限等により、報告数が少なかったと考えられる。

(文責 : 皐月)